

令和8年度第1回足立区環境審議会資料  
(令和8年5月28日開催)

(第四次環境基本計画策定に係る審議資料を抜粋)



<p>件 名</p>	<p>第四次環境基本計画策定における審議会意見の反映について</p>
<p>所管部課名</p>	<p>環境部環境政策課</p>
<p>内 容</p>	<p>第四次足立区環境基本計画策定に向け、令和7年度に環境審議会及び専門部会においていただいた意見を反映させ、計画素案を作成した（別紙「第四次足立区環境基本計画素案」参照）。</p> <p><b>1 施策群の目標に関する意見の反映</b>          令和7年度第3回環境審議会でご意見をいただいた施策群の目標について、上位計画である足立区基本計画同様に「目指す姿」として設定した。（2、3ページ参照）</p> <p>(1) いただいたご指摘          「ごみの量を減らす」や「身近な自然を守り増やす」など、表現が単純すぎて施策の内容が見えにくい。</p> <p>(2) 見直し点          施策により何がどうなるのかを明確にし、上位計画である足立区基本計画と同様に「目指す姿」として設定した。</p> <p><b>2 施策等への意見の反映</b>          4ページから9ページに審議会及び専門部会でいただいたご意見の反映内容についてまとめた。          別紙、環境基本計画素案の第4章（30ページから）、各柱立ての施策群において、「施策と具体的な取組み」として示し、解説やコラムを用いて内容をわかりやすく補足している。</p> <p><b>3 行動指針に関する意見の反映</b>          別紙、環境基本計画素案の第6章（104ページから120ページ）に区民、事業者、区それぞれの行動指針を計画の柱ごとにイラスト入りでわかりやすく設定した。区民、事業者の行動指針には、併せて区の支援策も掲載している。</p> <p>(1) いただいたご指摘          長野県飯田市の場面別取組事例集のような場面を想定した具体的な取組みを入れるべき。</p> <p>(2) 見直し点          ① タイトルを設定し目的や状況別に行動をまとめた。          ② 「すぐに実践できる」ことを重視し取組みやすいものから順に表示した。</p> <p><b>4 今後の予定</b>          今回いただいたご意見を反映させ、第2回環境審議会にて計画の答申案を提示していく。</p>

第四次環境基本計画施策群目標の見直し

<p>施策群 施策群の目標【修正前】</p>	<p>施策群 施策群の目標（目指す姿）【修正後】</p>
<p>1-1 省エネルギーの推進 エネルギーを効率的に使うことで二酸化炭素を削減する。</p>	<p>1-1 省エネルギーの推進 日常の心がけや工夫、新しい技術の積極導入によりエネルギー消費が最小限に抑えられている。</p>
<p>1-2 再生可能エネルギーの利用拡大 再生可能エネルギーを拡大し二酸化炭素を削減する。</p>	<p>1-2 再生可能エネルギーの利用拡大 再生可能エネルギーの導入が拡大され、エネルギー使用に伴う二酸化炭素排出量が減少している。</p>
<p>1-3 気候変動による被害の回避・軽減 暑熱、気象災害の被害を少なくする。</p>	<p>1-3 気候変動による被害の回避・軽減 気候変動の現状を知り、対策を講じることで暑熱、気象災害の被害が減少している。</p>
<p>2-1 ごみの減量 ごみの量を減らす。</p>	<p>2-1 ごみの減量 リデュース・リユースが日常化されるなど、ライフスタイルの転換により廃棄物の発生が根本から抑制され、ごみの減量が図られている。</p>
<p>2-2 持続可能な資源利用への転換 事業者との連携により、廃棄物の資源化を進める。</p>	<p>2-2 持続可能な資源利用への転換 資源循環への意識が高まり、分別の協力度が向上している。さらに事業者との連携で廃棄物の資源化(リサイクル)が進んでいる。</p>
<p>3-1 自然や生物多様性に対する理解の促進 自然や生物とのふれあいを通じて生物多様性の大切さを理解する。</p>	<p>3-1 自然や生物多様性に対する理解の促進 自然や生物とのふれあいの場を通じて日常から自然環境を意識し、生物多様性への理解が深まっている。</p>
<p>3-2 自然環境の保全と創出 事業者との連携により、廃棄物の資源化を進める。</p>	<p>3-2 自然環境の保全と創出 すべての「ひと」が自発的に自然環境を守り、緑を増やす取組みを実践することで、緑豊かな景観が創出されている。</p>

<p style="text-align: center;">施策群 施策群の目標【修正前】</p>	<p style="text-align: center;">施策群 施策群の目標（目指す姿）【修正後】</p>
<p>4-1 生活環境の保全と公害対策の推進 法令に基づく指導、対策と苦情への対応により生活環境を維持・改善する。</p>	<p>4-1 生活環境の保全と公害対策の推進 法令に基づく適切な指導及び対策と、苦情への対応により生活環境が向上している。</p>
<p>4-2 快適で美しいまちづくり 地域の美化活動や不法投棄・落書き対策によりきれいなまちをつくる。</p>	<p>4-2 快適で美しいまちづくり 積極的に地域の美化活動や不法投棄・落書き対策に関わる「ひと」が増えることで、きれいなまちづくりへとつながっている。</p>
<p>5-1 環境意識の啓発と行動する人材の育成 高い環境意識を持って行動する人を増やす。</p>	<p>5-1 環境意識の啓発と行動する人材の育成 環境問題を喫緊の問題として正しく理解し、「自分ごと」として捉え、自ら学び行動する「ひと」が増加するとともに、互いにつながり合い活躍の場が拡大している。</p>

環境基本計画素案（別紙）への環境審議会（専門部会）意見の反映

	審議会・部会での主な意見	計画掲載内容	計画素案掲載箇所
1	<p>① 脱炭素ロードマップの施策は成果を出している。さらに野心的に取り組むべき。</p> <p>② 「61%」だけでなく、「61%以上」のように意識を高く持てるような表現とすべき。</p>	<p><b>【CO<sub>2</sub>削減新目標】</b>  <b>(2035年度)</b>  <b>2013年度比 61%以上削減</b>  <b>(2040年度)</b>  <b>2013年度比 73%削減</b></p>	<p><b>P35</b>            柱1包含計画（足立区地球温暖化対策実行計画）に新目標掲載</p>
2	<p>① 全ての部門が一律で61%削減とはならない。部門ごとの削減目安を設定すべき。</p> <p>② 産業部門、業務部門、運輸部門は経済活動が中心で変動性が高く、区の施策が反映されにくい。</p> <p>③ 家庭部門は行政として働きかけやすく、施策の効果も出やすい。</p>	<p><b>【家庭部門のCO<sub>2</sub>削減量の目安】</b>            帯数の増減や技術の進歩等、不確定な要素があることを考慮し、目安となる数値は幅を持たせて示す。</p> <p><b>【併せて掲載】</b></p> <p>① 部門別排出量実績の推移や全体の排出量に占める家庭部門の割合</p> <p>② 区の家部門のCO<sub>2</sub>削減に寄与する関連施策</p>	<p><b>P36</b>            柱1包含計画（足立区地球温暖化対策実行計画）に掲載</p> <p><b>P33</b> 世帯あたりの家庭部門CO<sub>2</sub>排出量の推移掲載</p> <p><b>P39～</b> 施策群1-1「施策と具体的な取組み」に関連施策掲載</p>
3	<p>① 家庭部門のCO<sub>2</sub>削減という点では断熱が最も効果が高い。</p> <p>② 令和7年4月から省エネ法の基準が見直され、新築住宅の断熱性能の基準が高く設定された。</p> <p>③ 断熱の効果や光熱費の削減やヒートショックのリスク軽減などの視点からも紹介できると導入の誘導につながる。</p>	<p><b>【省エネルギー】</b>  <b>(1) 断熱に関する解説・コラム</b>            ア CO<sub>2</sub>削減効果が高い住宅等の断熱化推進  <b>➡</b> 特に既存建築物の窓の断熱化に注力            イ +αの効果と併せた啓発</p> <p>① 健康面（防カビ、ヒートショック対策）</p> <p>② 経済面（光熱費）</p> <p>③ 防音</p> <p><b>【併せて掲載】</b>            国の省エネ基準の適合義務化</p>	<p><b>P39～</b>            施策群1-1「施策と具体的な取組み」に関連施策掲載</p> <p>以下、コラム等掲載  <b>P39～40</b> 断熱窓と効果  <b>P43</b> 省エネ基準適合義務化</p>

	審議会・部会での主な意見	計画掲載内容	計画素案掲載箇所
3	<p>④ 太陽光発電は自家消費することが重要。蓄電池との併用でエネルギー使用の効率化を図る。</p> <p>⑤ 区からの働きかけで区内企業の意識が芽生えている。この連携を続けたい。</p> <p>⑥ ZEB 化前後の施設の CO2 排出量の比較、電気使用量の差等、数値で表して変化を示してほしい。</p>	<p><b>【省エネルギー】</b></p> <p>(2) 蓄電池の活用促進で効率的なエネルギー使用を啓発。</p> <p>(3) 区内企業、団体等への情報提供や導入の誘導策を展開。 (事例) 区ホームページ等で区内企業の取組紹介</p> <p>(4) 国や都の施策との連携（補助の上乗せや周知）。 (事例) 東京ゼロエミポイントと区の補助事業</p> <p>(5) 区施設の ZEB 化による効果の見える化と啓発。</p>	<p>P39～ 施策群 1-1 の「施策と具体的な取組み」に掲載</p> <p>以下、コラム等掲載 P41 国、都との連携 P43 ZEB 解説 P45 公共施設 ZEB 化</p>
4	<p>① 区の特性を活かした施策へさらに注力する。</p> <p>② 先進的な取組みについては、区としても情報収集をしつつ挑戦していくべき。</p>	<p><b>【再生可能エネルギー】</b></p> <p>(1) 区の特性を活かした太陽光発電設備導入促進。 (事例) 太陽光発電システム設置費補助金</p> <p>(2) PPA モデルによる学校への太陽光発電導入拡大と環境学習への活用。</p> <p>(3) 再エネ電力の導入促進。 (事例) 再エネ 100 電力導入サポートプラン協力金 再エネ電力リバースオークションの活用案内</p> <p>(4) 新たな技術の動向や先進事例等に関する情報収集と導入、実証等の検討。 (事例) ペロブスカイト太陽電池</p> <p><b>【併せて掲載】</b></p> <p>① 非化石証書の取引等に関する解説や環境活動が企業価値の向上に寄与する点等の説明</p>	<p>P49～ 施策群 1-2 の「施策と具体的な取組み」に掲載</p> <p>以下、コラム等掲載 P33 太陽光発電ポテンシャル P50 ペロブスカイト太陽電池 P51 区施設の再エネ率先導入 (PPA) P52 再エネリバースオークション、非化石証書等</p>

	審議会・部会での主な意見	計画掲載内容	計画素案掲載箇所
5	<p>① 数値の算定方法の面からも、区の施策のみでCO<sub>2</sub>排出量を下げるのは困難。啓発策が中心となる。</p> <p>② カーシェアリングの活用で、ハイブリッド車の燃費性能を体感した。</p> <p>③ 拠点の多さからシェアサイクルの利便性の高さを感じた。</p>	<p><b>【自動車部門のCO<sub>2</sub>排出削減】</b></p> <p>(1) ZEV（電気自動車等）への買い替え促進 （補助事業等、都の施策との連携）</p> <p>(2) 自家用車の使用を減らす （事例）カーシェアの活用 自転車の利用環境整備</p> <p><b>【併せて掲載】</b></p> <p>① 宅配ボックスの利用促進 （再配達削減策）</p> <p>② 新しい技術（水素エネルギー）の紹介</p>	<p>P45～ 施策群 1-1 (4)「交通の低炭素化」の「施策と具体的な取組み」に掲載</p> <p>以下、コラム等掲載 P46 東京都の動向 P46 カーシェアリング P46 再配達の削減 P53 水素エネルギー</p>
6	<p>① 分別したプラスチックは何に生まれ変わるのか？成果を知ることで、区民の協力が進む。</p> <p>② 多様性社会への対応（特に外国人のゴミ出しに関しての対策）が必要。</p> <p>③ 実際にモデル地区で分別に取り組み、廃棄物に占めるプラスチックの量の多さや、分別によるごみ減量の効果を実感。</p> <p>④ プラスチックごみを撮影し、AIで判定する機能等、ごみ出しアプリをさらに使いやすくしてほしい。</p> <p>⑤ バイオプラスチックも分解されにくく、汚染物質という点ではほかのプラスチックと変わりがない。イベントで袋を配布する際は情報を正しく伝えるべき。</p>	<p><b>【プラスチック分別とごみの減量】</b></p> <p>(1) リサイクルの「見える化」による協力度の向上。</p> <p>① リサイクル後どんな製品になるか。</p> <p>② リサイクルの実施によるCO<sub>2</sub>削減量 （事例）HP、動画、全戸配布チラシ等周知・発信</p> <p>(2) 多様性に対応した周知啓発による理解促進。 （一体的な周知とは別に特定の対象に届く周知の強化） （事例）案内動画の多言語化</p> <p>(3) 分別に関する課題や対応策等、情報の発信による区民との共有。</p> <p><b>【併せて掲載】</b></p> <p>① サーマルリサイクルからの移行に関する考え方</p> <p>② ごみ出しアプリを活用した情報発信 （AI判定アプリとの連動等は今後検討）</p>	<p>P65～ 施策群 2-2 の「施策と具体的な取組み」に掲載</p> <p>以下、解説掲載 P59 サーマルリサイクルからの移行について P91～ 施策群 5-1 の「施策と具体的な取組み」にも効果の見える化や多様化への対応について掲載</p>

	審議会・部会での主な意見	計画掲載内容	計画素案掲載箇所
7	<p>① 活動している団体の表彰や、講座受講者への修了証の発行が意識の向上に有効。</p> <p>② 区民に無理なく行動してもらうきっかけ作りとしてインセンティブは有効。</p> <p>③ 区内の自然を感じられるイベントを実施すべき。</p> <p>④ イベントの規模によっては、混雑等、参加者の負担となる。</p> <p>⑤ 交流や活動の発表の場としてイベントを活用すべき。</p> <p>⑥ ノベルティを配布していると、その場では受け取ってしまうが、結局使わないということが多くある。</p> <p>⑦ 環境問題の現状を正しく理解し、考える機会を増やすべき。</p> <p>⑧ 長い待ち時間が発生する場所のモニターで環境啓発をしてはどうか。</p> <p>⑨ ナッジ理論の活用などで行動変容を誘導すべき。</p>	<p><b>【「自分ごと」の行動につながる啓発策】</b>  (「+αの効果」で取組を促進)  (1) 環境に配慮した活動や企業、団体に対する表彰制度の検討  (2) デジタルインセンティブ導入の検討  (現状) 東京アプリとの連携検討  (3) 参加型イベントの充実  (区内の豊かな自然や生きものを感じることができるイベント  (事例) 自然体験ウォーク  (4) 団体の交流や取組みの発表の機会を提供  (5) イベント開催の環境配慮に関するルールを庁内共有</p> <p><b>【併せて掲載】</b>  ① 有効活用できるノベルティの選択  (使用されずに廃棄されるノベルティの配布に関する問題提起)  (6) 環境問題の現状を正しく理解し自ら考える機会の創出(啓発や情報発信)  (事例) 専門家による講座や動画による課題の「見える化」(気付きへと誘導する工夫)  (7) 手続きの待ち時間等を活用した情報発信。  (事例) 外国人向け動画等  (8) 行動のきっかけづくりとなる誘導策。  (事例) ナッジ理論の活用  給水スポットへの掲示</p>	<p>P91～  施策群 5-1 の「施策と具体的な取組み」に掲載</p> <p>以下、コラム等掲載  P91 ナッジ理論  P91 環境啓発イベントの開催  P92 +αの効果  P92 他の自治体のイベント実施事例</p>

	審議会・部会での主な意見	計画掲載内容	計画素案掲載箇所
8	<p>① 区としても先進的な取組みの情報収集を積極的に行うべき。</p> <p>② 初めて環境活動を行う区民、団体へのサポートを強化すべき。</p>	<p><b>【大学・企業・団体等との連携及び「やってみたい」環境活動の支援】</b></p> <p>(1) 区内大学との連携による取組みの検討。 (事例) 区内大学による環境基金の活用</p> <p>(2) 大学や企業による先進的な取組みの情報収集と区のかかわり方の検討。</p> <p>(3) 区民の取組みを後押しする体制の強化。 (事例) 環境基金・環境マイスター制度</p> <p><b>【併せて掲載】</b></p> <p>① 環境基金や環境マイスターの取組事例の紹介</p>	<p>P91～ 施策群 5-1 の「施策と具体的な取組み」に掲載</p> <p>以下、コラム等掲載 P94 環境基金の活用 P95 大学との連携</p>
9	<p>① 若者が多用するショート動画を活用した発信をすべき。</p> <p>② 多様性社会に対応した発信の必要性。</p>	<p><b>【環境に関する情報発信】</b> (若者に届く情報発信)</p> <p>(1) 若者の目に留まる SNS、ショート動画等を活用したタイムリーな情報発信。</p> <p>(2) 若者自身が発信・拡散者となる仕組みを検討。 (事例) 共感・拡散型 SNS、#キャンペーン等 (多様性社会への対応)</p> <p>(3) 多様性社会に対応した情報発信 (事例) 案内動画の多言語化</p>	<p>P91～ 施策群 5-1 の「施策と具体的な取組み」に掲載</p> <p>以下、コラム等掲載 P97 SNS等区の情報発信</p>

	審議会・部会での主な意見	計画掲載内容	計画素案掲載箇所
10	<p>① ゲーム感覚の楽しさと環境保全の満足度の両方を得られる取組で自発的な行動を後押しできる。</p> <p>② 活動意欲を引き出す工夫が欲しい。</p> <p>③ 実際の体験と専門家による講話で問題を「自分ごと化」することができる。</p> <p>④ 子ども・若者の知る機会をもっと増やすべき。</p>	<p><b>【学びの機会の提供】</b></p> <p>(1) ゲーム感覚・競技形式で環境を学ぶ (事例) 環境かるた大会</p> <p>(2) 学校との連携 (事例) タブレットを活用した環境学習教材</p> <p>(3) 専門家による講座の実施。 (事例) 小・中学校向け出前講座</p>	<p>P91～ 施策群 5-1 の「施策と具体的な取組み」に掲載</p> <p>以下、コラム等掲載 P87 あだち環境学習教材</p> <p>P98 環境かるた大会</p> <p>P86 清掃事務所による出前授業</p> <p>P98 小中学校環境学習出前講座</p>
11	<p>① 環境マイスターの活躍の場を増やすべき。</p> <p>② 環境マイスターに対しては「伝えるスキル」の向上を図るべき。</p> <p>③ 若者が環境リーダー(マイスター)として活躍できる仕組みを作り上げてほしい。</p>	<p><b>【環境のリーダーを育て取組みを波及させるしくみづくり】</b></p> <p>(1) 育成した環境リーダー(環境マイスター)の活躍の場の提供。</p> <p>(2) 環境の知識に加え指導や啓発に必要なスキル向上の支援。</p>	<p>P91～ 施策群 5-1 の「施策と具体的な取組み」に掲載</p> <p>以下、コラム等掲載 P88 環境マイスターの活動</p>
12	<p>① 親子で参加できる自然体験プログラムを実施してほしい。</p> <p>② 家庭で「環境」が話題になる仕組み(子から親への波及)を構築すべき。</p> <p>③ 意識に長く根付かせるためには実体験が有効。</p> <p>④ 実体験としての自然とふれあう講座が少ない(弱い)ように思う。</p>	<p><b>【五感で学ぶ自然体験と環境学習】</b></p> <p>(1) 親子で参加できる自然体験イベントの実施 (事例) アプリによる生き物調査 自然体験ウォーク</p> <p>(2) 記憶に残る実体験を伴う環境学習の実施。 (事例) 友好自治体との連携等による自然体験事業の紹介</p>	<p>P91～ 施策群 5-1 の「施策と具体的な取組み」に掲載</p> <p>以下、コラム等掲載 P100 魚沼自然教室 P101 親子で参加できるイベントや講座</p>